
目次:

- 編集局よりのご挨拶
- GDN-Japan運営協議会、ネットワーク会合結果報告
- GDN年次会合とは？
- 私とGDN: (財)国際開発高等教育機構(FASID)国際開発研究センター
湊直信 所長代行
- その他: メンバー機関からのNews掲載
- 編集局あとがき

○編集局よりのご挨拶

GDN-Japanの活動に対する平素よりの御理解、御協力を頂き、ありがとうございます。

現在、目前に控えた年次総会で発表されるパラレルセッションの最終仕上げに入っています。

今後ともGDN-Japanメンバーのネットワーク活性化を図り、またNewsletter配信等を通じてGDNの活動への情報共有、理解を深めていく所存ですので、引き続き宜しく御願います。

■GDN-Japan運営協議会、ネットワーク会合結果報告

去る12月9日、新JICA研究所のGDN-Japan事務局としては初めてのGDN-Japan運営協議会、ネットワーク会合を開催致しました。近藤GDN理事(ICU上級准教授)、多数のメンバーに参加頂き、ネットワーク会合では財団法人日本経済研究所の新規加盟の承認、次回クウェートでのGDN年次会合に向けた準備状況、GDN本部に係る最近の動きについて報告等が行われました。また、今後のGDN-Japanの中期的戦略として、GDNへのプロアクティブな働き掛け、具体的には次々回プラハ後の年次会合を見据えたテーマ提案(例えば「民活と開発」、「景気後退と開発」、「途上国間の成長格差」、「キャパシティ・デベロップメント」等)、GDNというネットワークのインフラ活用について議論が交わされました。

■GDN年次会合とは？

GDNの年次会合は毎年1回、特定テーマで開催され、世界中から約500名の研究者、政策立案者等が集結します。毎回設定されるメイン・テーマの下、プレナリーセッション(本会議)が5~6件、それぞれのプレナリーの後に4~5件、パラレルセッション(分科会)が開催されます。年次会合の前後にワークショップが開催されることがあります。

来るクウェートでの年次会合では、2月1日、2日のワークショップの後、2月3日~5日に開催される予定となっており、GDN-Japanと致しましては5日にパラレルセッションにて発表予定となっています。

1. 年次会合への参加意義

年次会合ではUNDP,世銀、各国(特に途上国)政府及び援助機関関係者といった多数の参加者が得られ、またその構成は経済学者のみならず社会学、政治学、人類学等多岐に渡るものです。会合参画を通じて以下のような意義があると考えられます。

1) 開発研究分野での国際見本的作用、研究発表や質疑を通じたアジェンダ形成機能

こうした場において研究発表、討論、情報収集を行う事により、高度化・複雑化する開発政策ニーズにより合致した研究課題の設定、更に共同研究まで視野に入れた開発コミュニティ内でのアジェンダの形成に資することができます。

2) 開発研究分野での国際ラボラトリ機能

GDNにおける国際開発研究(Global Research Project, GRP)、地域開発研究(Regional Research Project, RRP)といった共同研究プロジェクトを通じて創出された研究シーズを具体的な研究成果へと結実させることも可能です。

2. 他のネットワークとの差異

1) 知の創造、研究と政策の橋渡し、そして後に途上国研究者のキャパシティ・ビルディングを主な柱として誕生したGDNに対し、世銀主導のものを含むほかのネットワークは、知識の共有(知識へのアクセス)に重点が置かれている。特に、ネットワークを活用した共同研究が充実している点に関しGDNは卓越した存在と言っても過言ではない。

2) ICTが進展した現在、国際開発研究、地域開発研究や年次会合開催等といった活動は、研究者・実務者間の直接対話をもたらし、知識創出機能を有する点、単なる情報インフラ提供ではないGDNの独自性を一層際立たせるものとなっている。

3) 専門分野のネットワークは、国際的な学会も含めて多数あるが、分野横断的な包括性、学際性、ネットワークとしての全世界的広範性・普遍性に関してはGDNの右に出るものはない。

■私と GDN: (財)国際開発高等教育機構(FASID)国際開発研究センター 湊直信 所長代行

GDN は様々な活動を行ってきたが、開発の潮流が解る最もダイナミックな活動が毎年開催される年次会合であろう。先進国と開発途上国の研究者、援助関係者、NGO、政策担当者等が集まり多様な視点から開発を議論する点が意義深い。今までに4回の年次会合に参加したが、その時期、開催地、設定されたテーマにより議論に様々な特徴が見られる。

2003年にカイロで開催された第4回年次会合では、エジプト・ムバラク大統領夫人等をはじめとし、約500名が参加して、“Globalization and Equity”をテーマとした活発な議論が行われた。特にアフリカからの参加者によるアフリカ開発の議論が興味深かった。会場ではセミナーと平行してナレッジフェア(展示会)が開催された。

2006年にサンクトペテルブルクで開催された第7回年次会合では、フランス・

フクヤマ・ジョンズホプキンス大学教授等をはじめとし、約 500 名が参加して、“Institutions and Development: At the Nexus of Global Change”をテーマとした議論が行なわれた。フクヤマ教授の制度と開発の議論や、現地でロシア経済や旧ソ連邦に関する開発議論を直接聞くことは有意義であった。

2007年に北京において開催された第8回年次会合では、ローレンス・サマーズハーバード大学教授等をはじめとし、約600名が参加して、“Shaping a New Global Reality: The Rise of Asia and its Implications”をテーマとした活発な議論が行なわれた。特にアフリカと中国からの参加者を交えたアフリカにおける中国効果に関する議論が興味深かった。この会合では、FASIDはアジア経済研究所、国際協力銀行と共催で「集積による開発・内生的成長と貧困削減」をテーマに分科会を開催した。「経済発展及び貧困削減のための産業集積：中国とアフリカの事例から」と題した分科会では、ウガンダにおける木工産業とエチオピアの靴産業の産業集積の事例が紹介された。FASID－GRIPS博士課程修了者であるJohn E.Akoten氏が発表し、産業集積を研究してきたFASIDの園部哲二教授もコメンテーターとして参加の機会を得た。

2008年にプリズベンにおいて、第9回年次会合が開催され、ポール・コリアオックスフォード大学経済学教授等が参加して“Security for Development: Confronting Threats to Survival and Safety”のテーマの下、議論が行われた。参加者の中でのポール・コリア教授への注目度は抜群であり、翌月、日本で同教授を招いて講演会を開催し、私はファシリテーターを行ったが、事前準備としてGDN参加は大変に役立った。FASIDはWorkshop“ The Impact of Disasters on Household Welfare”を主催し、澤田康幸東京大学准教授が報告を、Chandra Athukorala Australian National University 教授がコメントを行った。日本からの発信の一助になったのではと思う。

以上のように、GDN 会合と我々の研究事業は徐々にではあるが関連付けられて来ている。GDN は大きな潜在力を持っておりまだまだ活用の余地は多く、以下、今後の可能性について考えてみたい。

(1) GDN 会合で出会った研究者から研究成果が送られてきたり、逆に当方の研究報告書を送ったりすることがある。また、メールで各種問い合わせやコメントを求められたりすることもある。GDN は人的ネットワークのインフラであり、これを如何に活用するかは個々の創意工夫次第であるとの印象を持っている。

(2) GDN の場は日本からの発信の場でもあり、日本の考えている事を発信する機会として捉えることも重要であると思う。これと、開発途上国が主役であるとの立場は矛盾するものではない。

(2) GDN を学者や民間人に広く解放する努力が必要である。日本のハブは日本一国だけであるのに対し、他のハブは数カ国を含む地域ハブとなっている。様々な視点から開発を議論するためには、政府や援助関係者のみならず、学会、NGO、民間企業の参加も促すべきではないかと思われる。近年、ODA と民間企業の連携の模索が始まっているが、企業人にとっても GDN は開発を知る良い機会になるのではないだろうか。

■その他：メンバー機関からのNews掲載

メンバー機関のFASIDのNewsを紹介致します。

●FASID Journal Express最新号のご紹介

Journal Expressは、最新の海外主要ニュースメディア・シンクタンク・雑誌情報などを抜粋・編集した週刊国際開発情報誌(和要約付)です。今回は最近2号分の見出しとURLをご紹介します。

○JX 3:29 (08.11.26) <http://dakis.fasid.or.jp/report/jxpdf/jx3-29.pdf>

UN、金融危機と人道救済に巨額支援要請／ADB内部監査でPEF投資に批判／UNDP、アジアの経済減速に警鐘／富裕国との土地所有契約に慎重な貧困国／ドーハ最新：G20サミットで交渉年内合意へ／食糧危機を防げなかった国際機関体制／会議：第2回開発金融国際会議／ポス京議最新：先進国の温室効果ガス排出は横ばい

○JX 3:28 (08.11.19) <http://dakis.fasid.or.jp/report/jxpdf/jx3-28.pdf>

国連事務総長先導、コンゴ仲裁協議／アフリカでの中国人襲撃／世銀、1000億ドルの金融危機対策支援／OECD、ドナー国に援助誓約を要求／焦点：G20(主要20カ国)／出版：2009年世界開発報告；パリ宣言の2008年モニタリング調査；大気褐色雲ABCの脅威

○編集局あしがき

今回はGDN-Japan事務局としては、新JICA体制として2回目の発刊となります。次回、第5号は年次会合後の2月の配信を予定しております。

今後とも、GDNの活動について広く御理解を得るべく、分かり易さを旨として配信して参りたいと思います。

皆様の御意見頂きましてより良くしていきたいと思っておりますので、当該GDN-Japan ニュースレターへのご質問やご意見などを dritrn-gdn-japan@jica.go.jp まで是非お寄せ下さい。